



レセプトチェッカーLS

Receipt Checker Learning System

インストール・マニュアル

目次

1. CD-ROM版とダウンロード版	
1-1 ダウンロードファイルの展開	02
2. インストール	
2-1 「Install」の実行	02
2-2 環境チェック	04
2-3 FirebirdDBのインストール	08
2-4 レセプトチェッカーLSのインストール	09
2-5 レセプトチェッカーLSクライアントPCの インストール	11
3. レセプトチェッカーLSの起動と設定	
3-1 レセプトチェッカーLSの起動	16
3-2 初期設定	16
ライセンスキーの入力	
薬価判断設定	
ORCA接続の設定	
過去データの取込	
3-3 ネットワーク設定	22
データベースの設定	
3-4 サーバーの設定	23
ネットワーク設定	
4. レセプトチェッカーLSの更新	
4-1 更新の概要	26
4-2 自動更新	26
4-2 手動更新	28

開発：株式会社 風画

サポート：株式会社エヌ・アイ・エム

1. インストール

1-1. CD-ROM版とダウンロード版

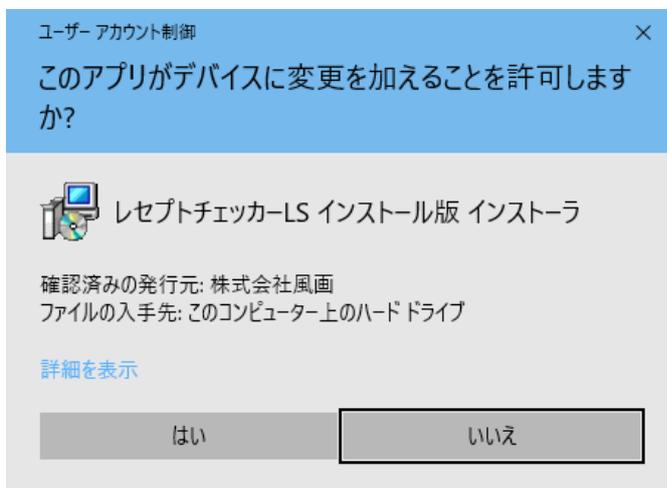


CD-ROM版、ダウンロード版のいずれもInstall.exeを「ダブルクリック」または、「右クリック」して表示されるメニューから「開く」を選択してください。

2. インストール

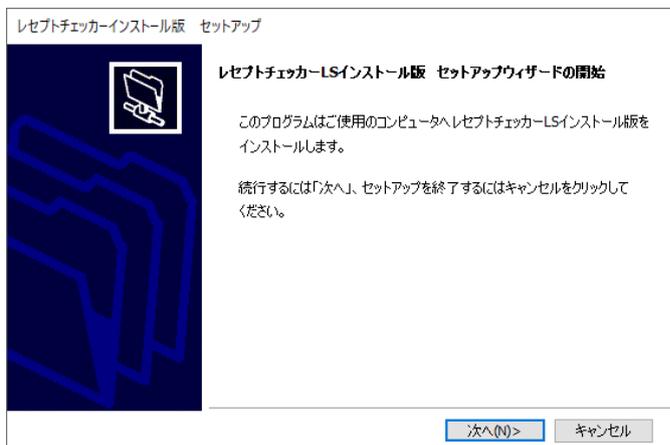
2-1. 「Install」の実行

「Install.exe」を「ダブルクリック」または、「右クリック」して表示されるメニューから「開く」を選択してください。

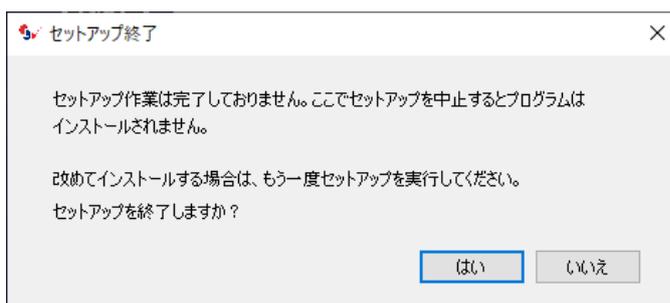


左図の「ユーザーアカウント制御」画面が出たら、「はい(Y)」をクリックして進めます。

「いいえ(N)」をクリックすると終了します。



「レセプトチェッカー-LS セットアップウィザードの開始」画面が表示されるので、ご確認いただいたら「次へ」をクリックします。



「キャンセル」をクリックすると「セットアップ終了」メッセージが表示され、「はい(Y)」をクリックすると終了します。



新規インストールやインストール先が不明な場合は、「新規インストール」か「更新」かの確認画面が表示されます。新規インストールの場合は、「新規インストール」ボタン、既にインストールされている場合は「次へ(更新)」ボタンをクリックします。

2-2. 環境チェック



「環境チェック」を行います。

「RCF環境チェッカー」の画面が表示されます。

(1) 環境チェック

チェック内容は、OSのバージョンやパソコンの動作環境、32bit/64bitの確認およびFirebirdデータベースの導入チェックです。

(2) レセプトチェッカーLSインストール

レセプトチェッカーLS本体をインストールします。



「環境チェック」をクリックします。

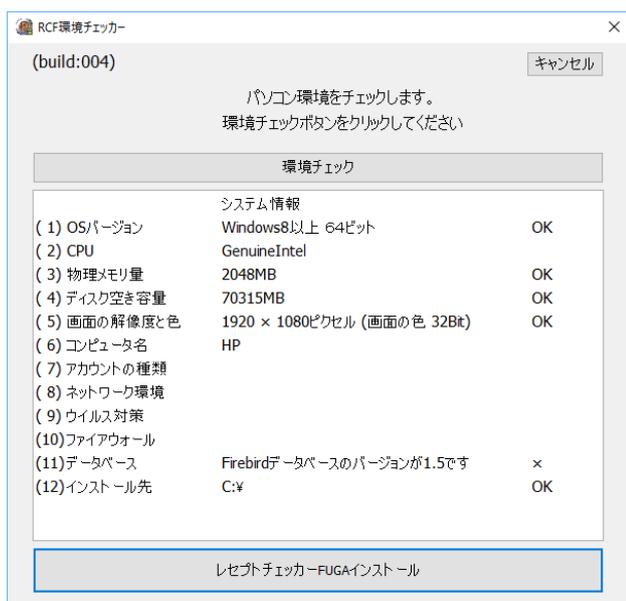
環境チェックが実行され、結果が表示されます。

左図の環境チェック結果のように、

「Firebirdデータベースは導入されていません」に×印が表示された場合は、「レセプトチェッカーLSインストール」ボタンをクリックすると、Firebirdデータベースのインストーラが自動的に起動し画面に表示されます。

その後、レセプトチェッカーLSのインストールが開始します。

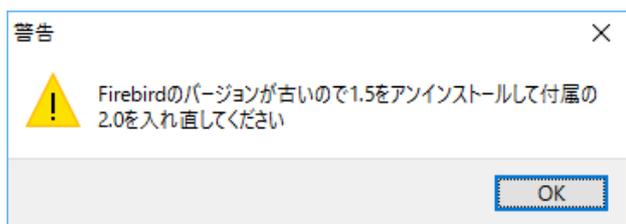
【Firebirdデータベースが導入済で、バージョン1.5の場合】



日医の「医見書ソフト」や「給管鳥」などをお使いのパソコンでは、すでにFirebirdデータベースが導入されているため、左図のように「Firebirdデータベースのバージョンが1.5です」と表示される場合があります。

この場合は、レセプトチェッカーLSはご利用できないので、一旦アンインストールしてバージョン2.0をインストールする必要があります。

※バージョン2.0にしても、日医・医見書、給管鳥に影響はありません。



「Firebirdデータベースのバージョンが1.5です」と表示される場合、左図のようにバージョン2.0に促すメッセージが表示されます。この場合は、「OK」をクリックします。

「プログラムの追加と削除」が表示されますので右クリックして、「アンインストール」（Windows Vista以降）選択します。



↑ Windows8 の例

WindowsXP の場合は、「削除」を選択します。



↑ WindowsXP の例

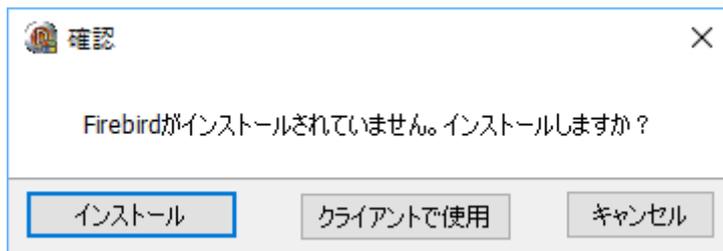
【Firebirdデータベースが導入済で、バージョン2.0の場合】

「Firebirdデータベースは導入済みです(Ver 2.0)」と表示された場合は、2-4. 項「レセプトチェッカーLS のインストール」にお進みください。

【Firebirdデータベースが導入済で、バージョン2.5の場合】

MI_CAN（電子紹介状を作成するソフト）を既に導入されている場合は、「Firebirdデータベースは導入済みです(Ver 2.5)」と表示されますが、レセプトチェッカーは問題なく動作しますので、2-4. 項「レセプトチェッカーLS のインストール」にお進みください。

【Firebirdデータベースが導入されていない場合】



Firebird データベースがインストールされていない場合は上図のようなメッセージが表示されます。2-3. 項「Firebird データベースのインストール」にお進みください。

環境チェッカーで(11)データベース以外の項目で×だった場合について

(1) OS バージョン

Windows8以降でないとは正常に動作しない場合があります。×の場合は他のPCにインストールされることをお勧めします。

(2) CPU

市販のPCでWindows8以降であれば大きな問題はありません。

(3) 物理メモリ量

1000MB以上の表示が望ましいですが、それ以下の場合は動作に時間を要する場合があります。

(4) ディスク空き容量

80MB以上の空き容量が必要です。

(5) 画面の解像度と色

1024×768の場合、レセプト抽出画面で全て表示されません。1024より高い解像度をお勧めします。

(6) コンピュータ名

半角の名前をお勧めします。

(7) アカウントの種類

(8) ネットワーク環境

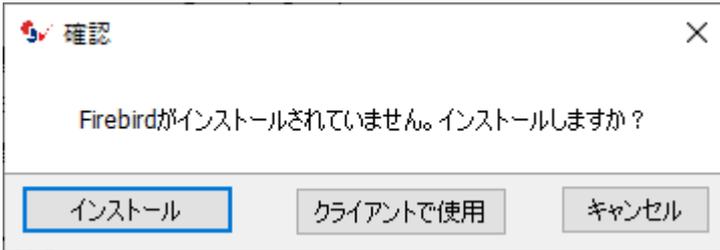
(9) ウイルス対策

(10) ファイアウォール

(12) インストール先

基本的に、Cドライブ（ローカルディスク(C)）の導入される仕様です。

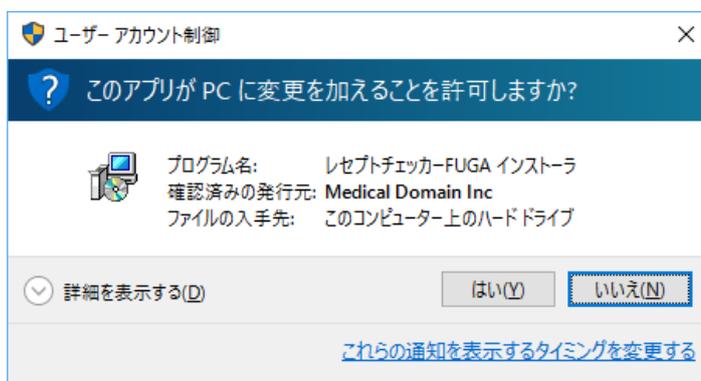
2.3 Firebird データベースのインストール



Firebird が導入されていないパソコンの場合、上図の確認メッセージが表示されます。

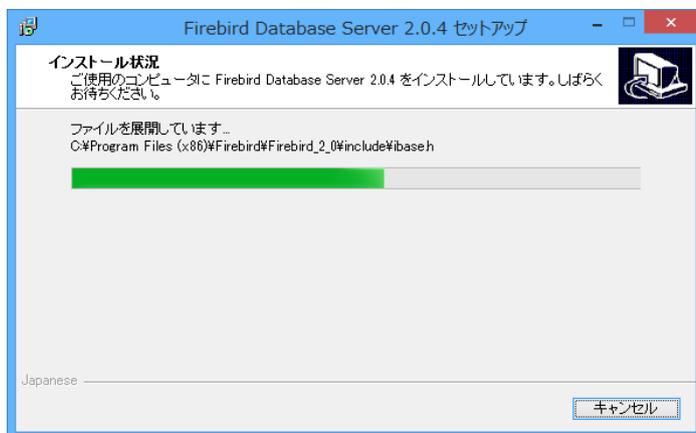
通常は、「はい」をクリックしてください。

クライアントPCとしてのみレセプトチェッカーLSをご利用になる場合には、「クライアントで使用」をクリックすると、Firebirdのインストールを省略して、レセプトチェッカーLSのインストールを行います。



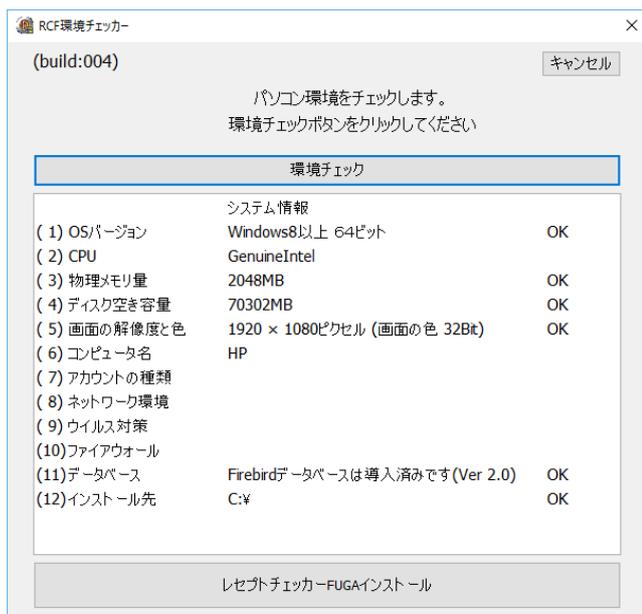
※このとき、Windowsの「ユーザーアカウント制御」による確認画面が表示される場合があります。上記の確認画面が表示されたときは、「はい」をクリックしてください

自動的にFirebirdがインストールされます。これでFirebirdのインストールは完了しました。



「確認」で「インストール」を選択した場合は、2-4. へ、「クライアントで使用」を選択した場合は2-5. へお進みください。

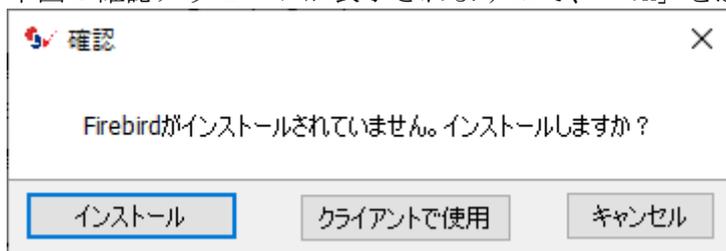
2.4 レセプトチェッカーLSのインストール



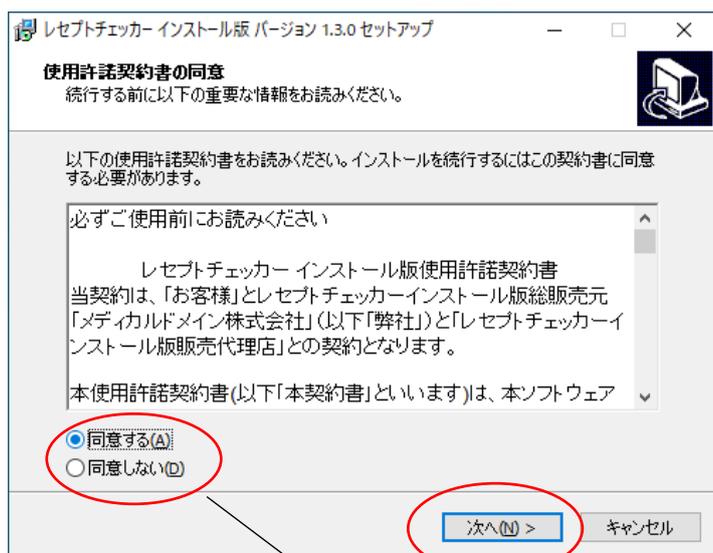
「RCF環境チェッカー」のチェック結果画面に、「Firebirdデータベースは導入済みです(Ver 2.0)」と表示されていることを確認のうえ、「レセプトチェッカーLSインストール」ボタンをクリックしてください。

このとき、Windowsの「ユーザーアカウント制御」による確認画面が表示される場合があります。この確認画面が表示されたときは、「はい」をクリックしてください

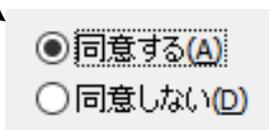
下図の確認メッセージが表示されますので、「OK」を選択します。

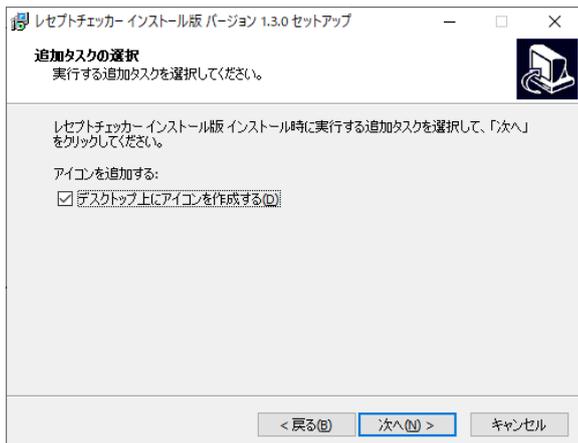


使用許諾契約書の同意についての確認画面が表示されます。スクロールすることで、最後までお読みいただけます。

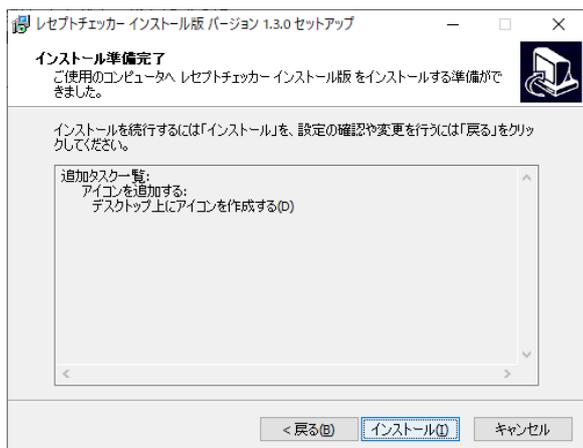


同意する」にチェックして「次へ」をクリックします。

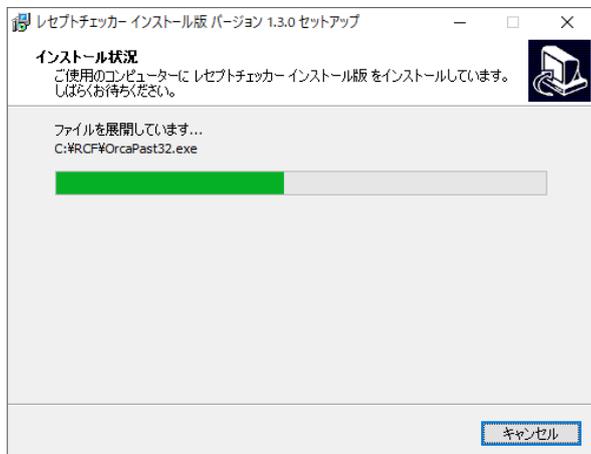




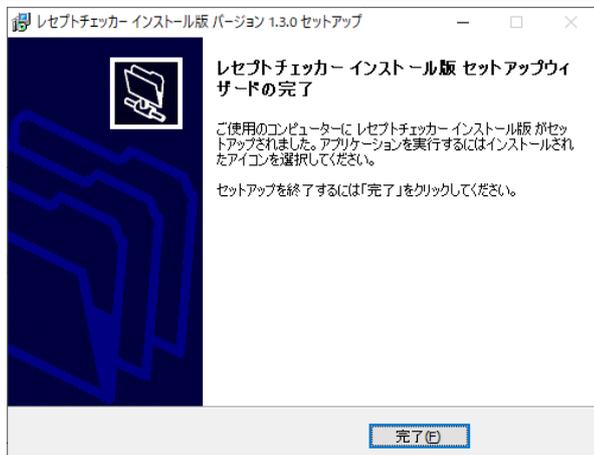
「追加タスクの選択」画面が表示されますので、「アイコンを追加する」の下に「デスクトップ上にアイコンを作成する」にチェックを入れたままで、「次へ(N)」をクリックします。



「インストール準備完了」画面が表示されるので「インストール(I)」をクリックするとインストールされます。



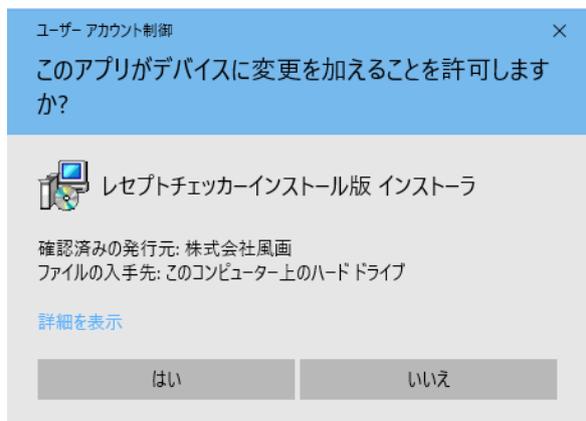
「インストール状況」が表示されます。



レセプトチェッカーLS セットアップウィザードの完了」画面が表示されます。「完了」をクリックして終了です。

2-5. レセプトチェッカーLSのクライアントPCインストール

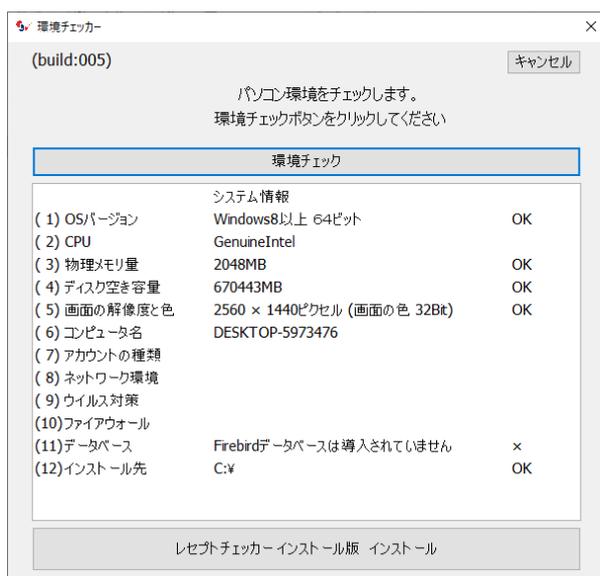
「Install.exe」を「ダブルクリック」または、「右クリック」して表示されるメニューから「開く」を選択してください。



左図の「ユーザーアカウント制御」画面が出たら、「はい(Y)」をクリックして進めます。

「いいえ(N)」をクリックすると終了します。

「レセプトチェッカーLS セットアップウイザードの開始」画面が表示されるので、ご確認いただいたら「次へ」をクリックします。



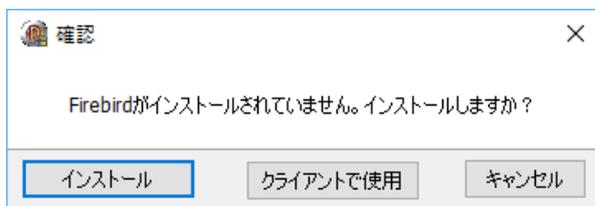
「環境チェック」をクリックします。

環境チェックが実行され、結果が表示されます。

左図の環境チェック結果では、「Firebirdデータベースは導入されていません」に×印が表示されました。

クライアントPCではFirebirdデータベースは導入する必要がありません。

「レセプトチェッカーLSインストール」をクリックします。

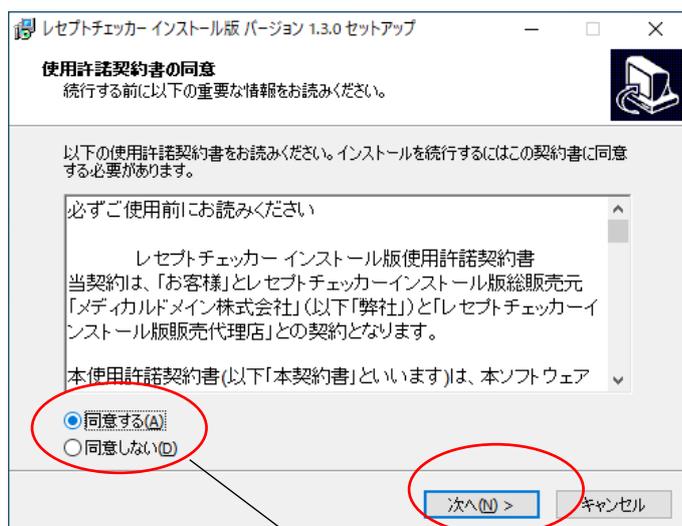


「クライアントで使用」をクリックします。

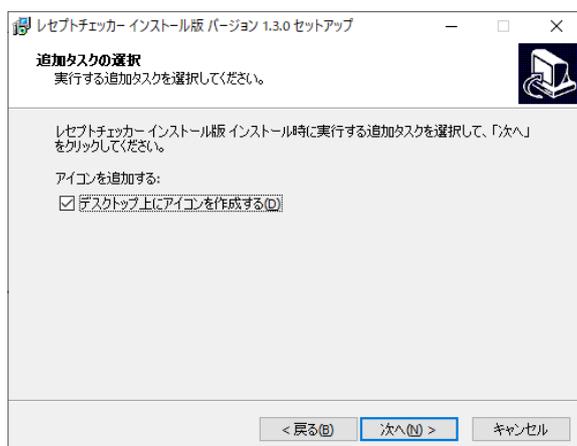
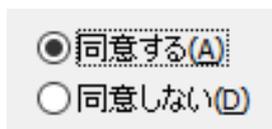


左図の確認メッセージが表示されますので、「OK」を選択します。

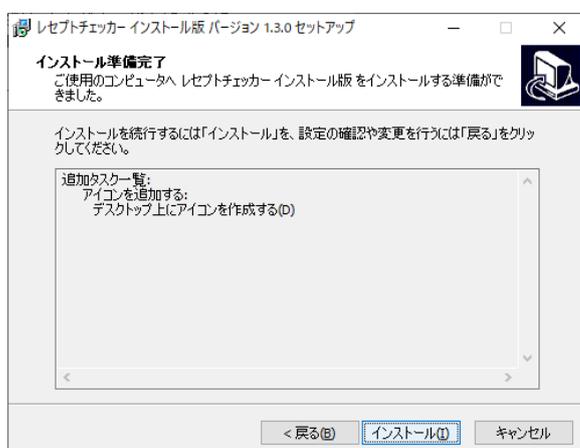
使用許諾契約書の同意についての確認画面が表示されます。スクロールすることで、最後までお読みいただけます。



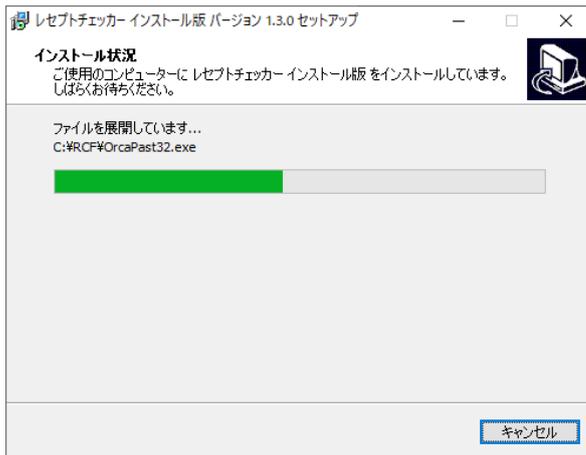
「同意する」にチェックして「次へ」をクリックします。



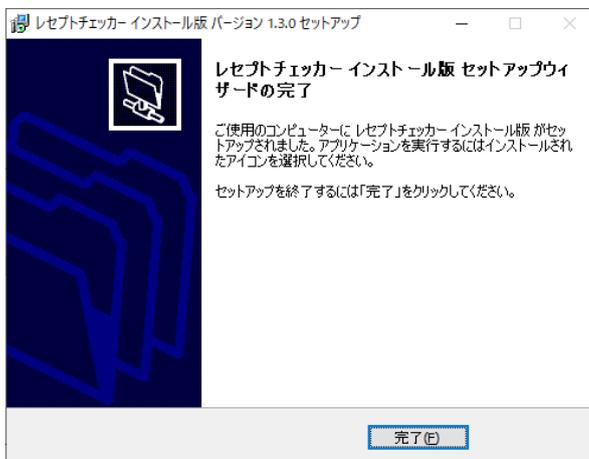
「アイコンを追加する」の下の「デスクトップ上にアイコンを作成する」にチェックを入れて、「次へ(N)」をクリックします。



「インストール準備完了」画面が表示されるので「インストール(I)」をクリックするとインストールされます。



「インストール状況」が表示されます。



「レセプトチェッカーLS セットアップウィザードの完了」画面が表示されます。「完了」をクリックして終了です。

※クライアントPCからサーバーPCへの設定は、3-3. ネットワーク設定を参照してください。

【クライアントPCから接続できない場合】

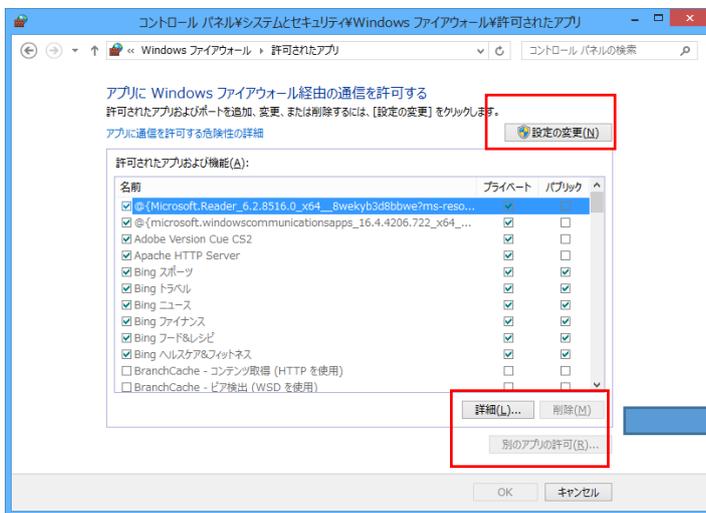
Windows ファイアウォールが、サーバーPCの FireBird をブロックして、接続できない場合があります。その場合は、Windows ファイアウォールによるアプリケーションの許可をします。



(1) Windows 8 の場合

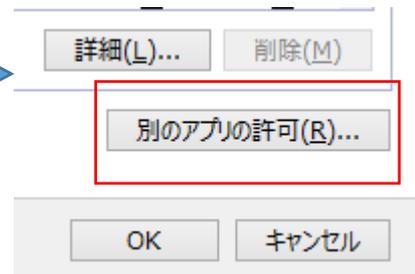
コントロールパネルを開きます。「システムとセキュリティ」を選択します。

Windows ファイアウォールの Windows ファイアウォールによるアプリケーションの許可を選択します。

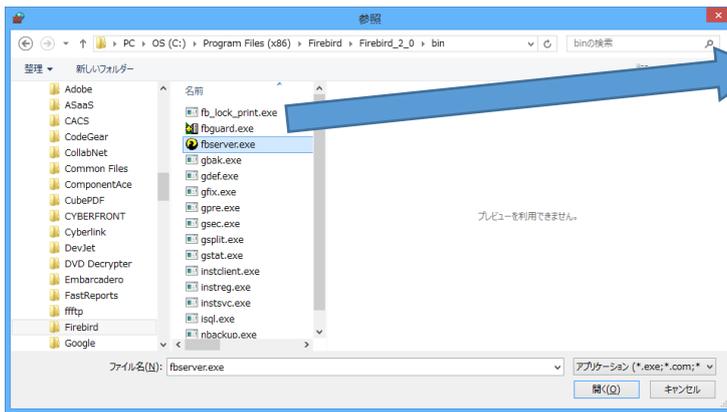


「アプリに Windows ファイアウォール経由の通信を許可する」画面が表示されます。「設定の変更」をクリックします。

「別のアプリの許可」をクリックします。



「アプリの追加」画面が表示されます。参照をクリックします。



fbguard.exe
fbserver.exe

ローカルディスク (C) 中の Program Files 中の Firebird の中の Firebird_2_0 の中の bin フォルダの中の fbserver.exe を選択し「開く」をクリックします。
「アプリの追加」画面に戻るので、「追加」をクリックします。

「アプリに Windows ファイアウォール経由の通信を許可する」画面に戻ったら「OK」で終了です。

(2) Windows8 以外の場合は、3-4. サーバーの設定を参照してください。

3. レセプトチェッカーLSの起動と設定

3-1. レセプトチェッカーLSの起動

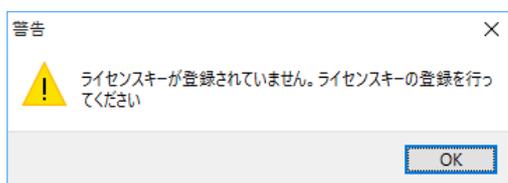


レセプトチェッカーLSを起動するには、デスクトップに作成されたショートカット「レセプトチェッカーインストール版」をダブルクリックしてください。

3-2. 初期設定

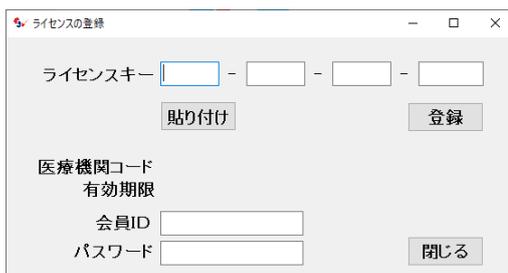
①ライセンスキーの入力

起動後、最初にライセンスキーの設定を行う必要があります。



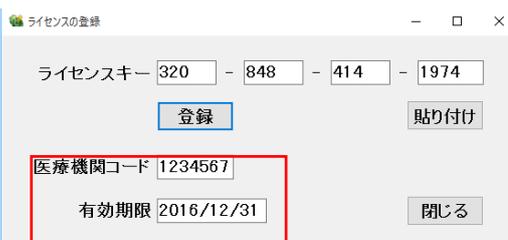
左図の「警告」画面が表示されます。

「OK」をクリックするとライセンスキー登録画面が表示されます。



「ライセンスキー」欄に購入時に伝えられたライセンスキーを入力します。

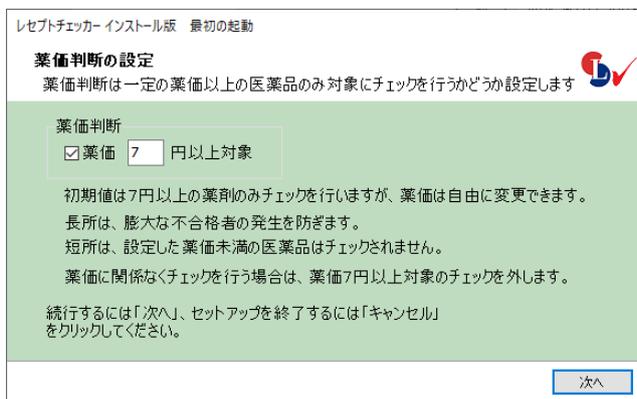
または、メールで案内されたライセンスキーをコピーして、「貼り付け」ボタンをクリックすると自動的に張り付きます。



「登録」ボタンをクリックすると「医療機関コード」と有効期限が表示されます。

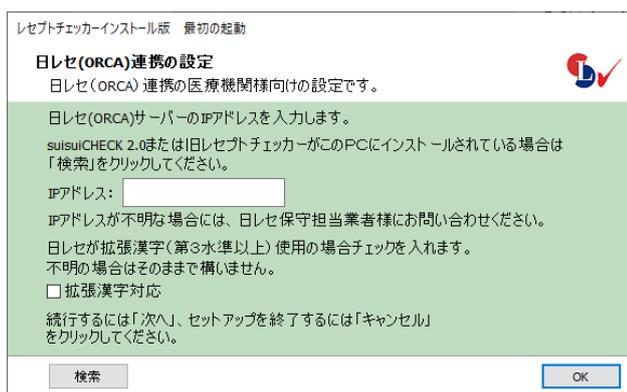
これで登録完了です。

「閉じる」ボタンをクリックします。



②薬価判断設定

薬価が安価な医薬品はチェックしないことができます。「薬価」にチェックを入れると入力した薬価以上の医薬品のみチェックを行います。初期値は、7円です。薬価判断設定では一定の薬価（初期値7円）以上の医薬品のみ対象にチェックを行うかどうかの設定です。設定値は自由に変更できます。薬価に関係なく全ての医薬品を対象にする場合は、「薬価7円以上対象」のチェックを外しします。「次へ」をクリックします。



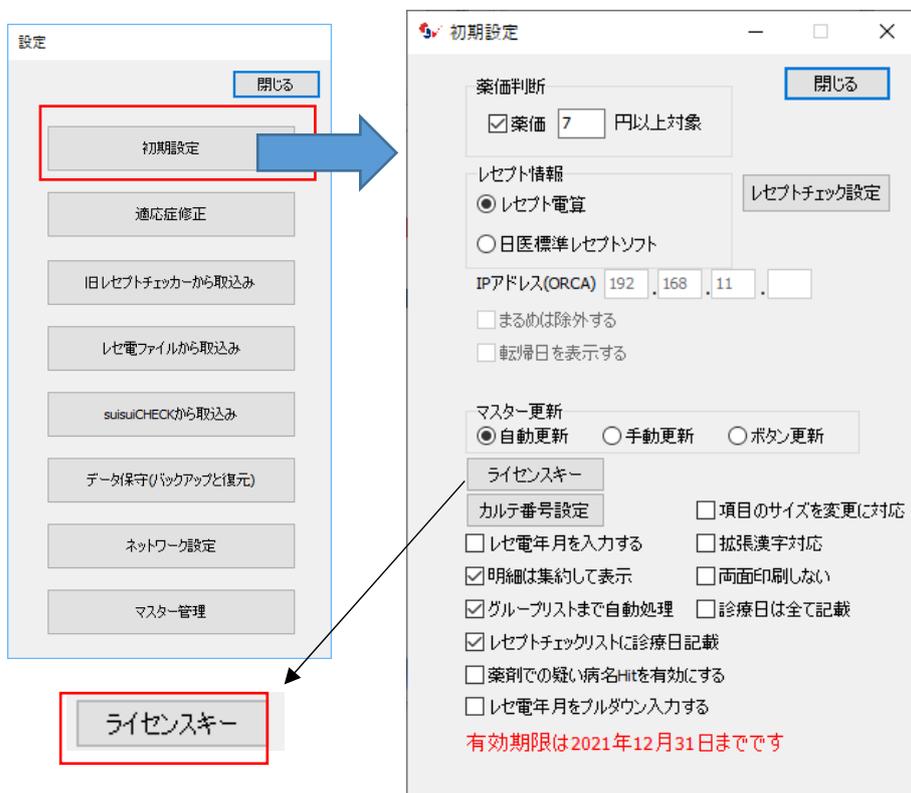
③日レセ(ORCA)IPアドレス設定

レセコンで、日医標準レセプトソフト(ORCA)をご利用の医療機関様のみ必要となります。日レセ(ORCA)サーバーのIPアドレスを入力し、suisuiCHECK2.0または旧レセプトチェッカーをご利用の場合、「検索」ボタンをクリックするとIPアドレスが自動で取得できます。日レセ(ORCA)が、拡張漢字を使用している場合には「拡張漢字対応」に必ずチェックを入れてください。

入力後、「OK」をクリックします。

【ORCA接続の設定を変更するには】

メニューから「設定」をクリックし、「初期設定」をクリックします。



「初期設定」画面が表示されます。

「レセプト情報」欄にある「日医標準レセプトソフト」を選択し、IPアドレスを入力します。

入力後、「閉じる」ボタンを押して「初期設定」画面を終了します。

最初の起動時に入力した「ライセンスキー」は、「ライセンスキー」ボタン押下して変更が可能です。

入力後、「閉じる」ボタンを押して「初期設定」画面を終了します。

「初期設定」画面を閉じると「設定」画面に戻ります。

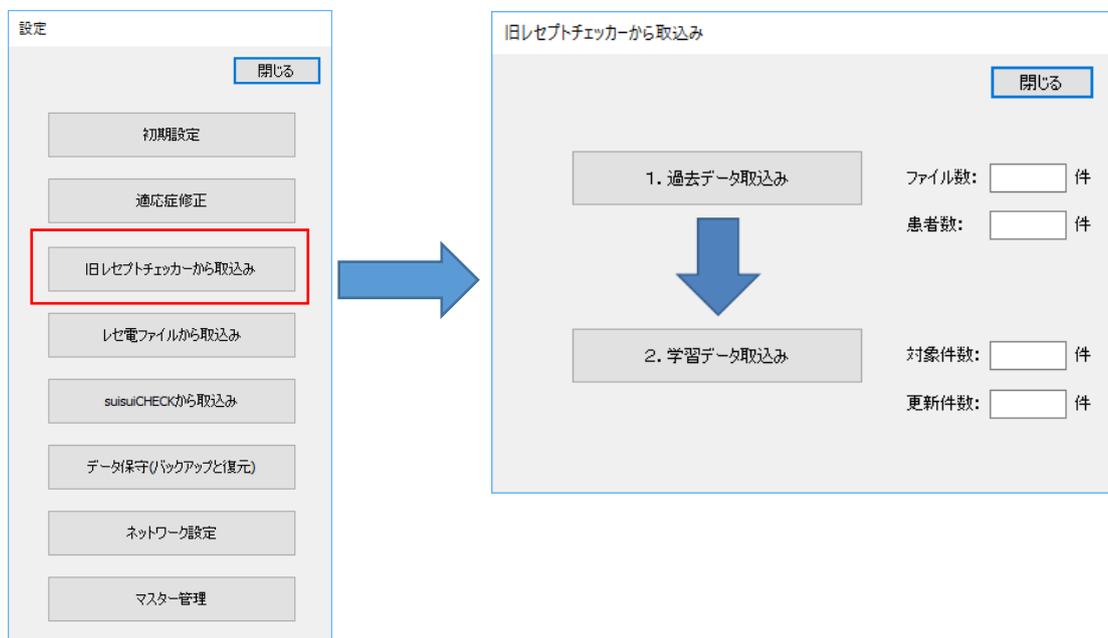
「設定」画面の「閉じる」ボタンを押して「設定」画面を終了します。

設定後は、設定内容を反映させるため、一度メニュー画面の「閉じる」ボタンを押してレセプトチェッカー-LSを終了させてください。

④過去データの取込

旧レセプトチェッカーまたはsuisuiCHECK2.0から、過去データ（レセプト情報）やユーザーが登録した学習データを取り込むことができます。

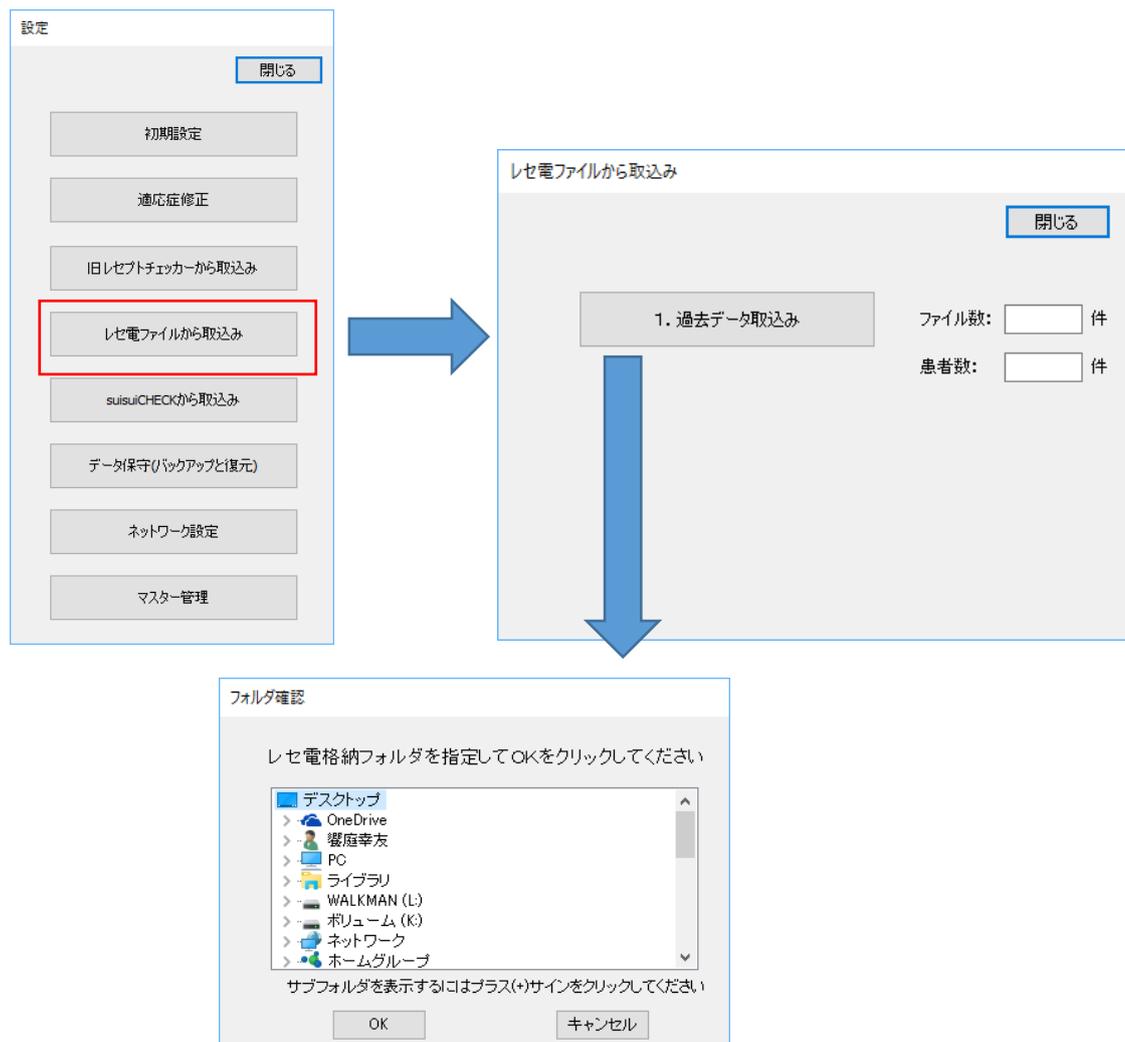
(1)旧レセプトチェッカーから取込み



「過去データ」（レセプト電算ファイルの内容）と「学習データ」と2種類のデータを取り込めます。いずれも自動的にファイルを検索して取り込みます。

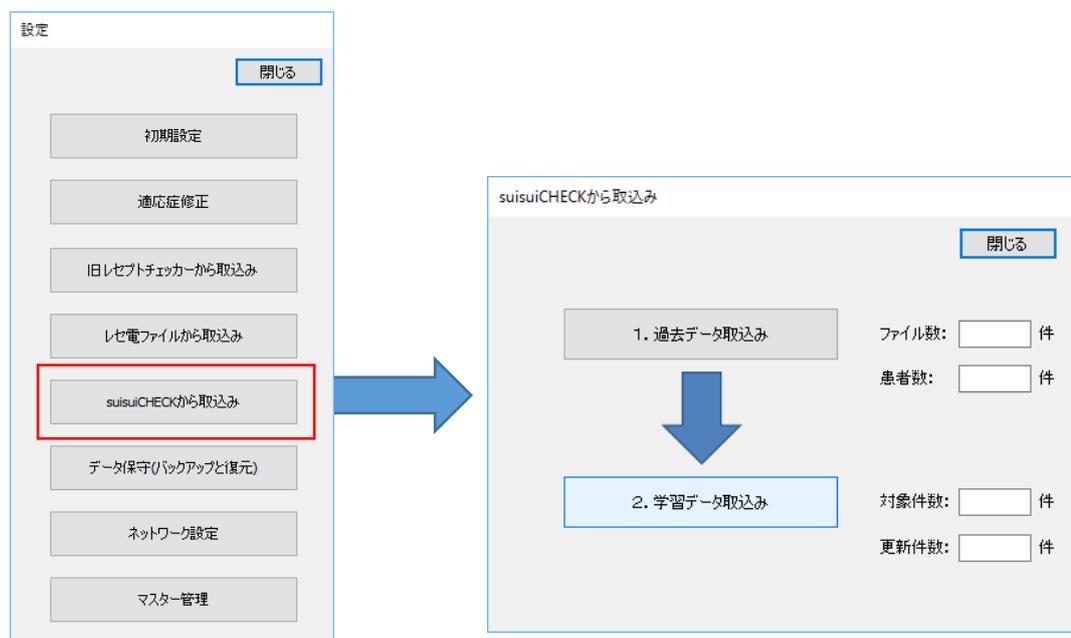
日医標準レセプトソフト(ORCA)設定済の場合、「過去データ」は自動的にORCAから取り込まれます。

(2) レセ電ファイルから取込み



「フォルダ確認」画面が表示され、レセ電ファイルの格納場所を選択します。
日医標準レセプトソフト (ORCA) 設定済の場合、「過去データ」は自動的にORCAから取り込まれます。

(3) suisuiCHECKから取込み



「過去データ」（レセプト電算ファイルの内容）と「学習データ」と2種類のデータを取り込みます。いずれも自動的にファイルを検索して取り込みます。

【過去データの取込み】



取り込むファイル数と患者総数が表示され、カウントアップしていきます。



処理終了後、完了したことを知らせるメッセージが表示されます。

【学習データの取込み】

suisuiCHECKから取込み

閉じる

キャンセル

1. 過去データ取込み

ファイル数: 件

患者数: 件

2. 学習データ取込み

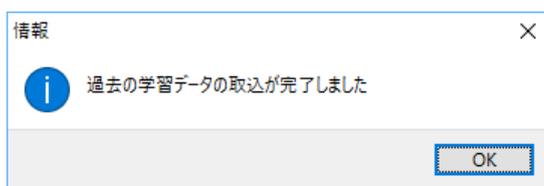
対象件数: 7527 件

更新件数: 件

学習データを抽出しています
画面をそのままにしてお待ち下さい
完了までに数10分かかります

対象となる「学習データ」を抽出中は、「学習データを抽出しています」と表示され、点減します。抽出終了後、「学習データを整理しています」と表示され、取り込むデータを選択します。その後「学習データを取り込んでいます」と表示され、更新件数がカウントアップします。

「キャンセル」ボタンをクリックしてキャンセルすることもできます。



処理終了後、完了したことを知らせるメッセージが表示されます。

3-3. ネットワーク設定

レセプトチェッカーLSは、LAN上の複数のパソコンで同時に使用可能な「サーバー・クライアント型ソフトウェア」です。これは1台のパソコン上にデータを集約する「サーバー機」の役割を持たせることで、どのパソコンからでも最新のレセプト・チェックが行えるようにするものです。

この設定を行うには、あらかじめ「サーバー」となるパソコンにレセプトチェッカーLSがインストールされている必要があります。

また「サーバー」のパソコンには、他のパソコンから接続可能とするための「ファイアウォール」の設定が必要です。このファイアウォールの設定については、3-4. 項「サーバーの設定」を参照してください。



～ (中略) ～



ネットワーク設定を行うには、「設定」画面の「ネットワーク設定」をクリックしてください。



「ネットワーク設定」画面が表示されます。

「データベース」の「他のコンピュータ」を選択し、「サーバー機」となるパソコンの「IPアドレス」を入力してください。

この「他のコンピュータ」を選択したとき、最初に表示されるIPアドレスは、コンピュータ自身のIPアドレスです。

「サーバー機」のIPアドレスが不明な場合は、サーバー機のレセプトチェッカーLSを起動して、「設定」の「ネットワーク設定」画面から「他のコンピュータ」を選択してください。画面の「IPアドレス」に、サーバー機のIPアドレスが表示されます。

サーバー機のIPアドレスを確認後、サーバー機のネットワーク設定を「ローカル（自端末）」に戻してください。

入力後、「閉じる」ボタンを押して「ネットワーク設定」画面を完了します。

「ネットワーク設定」画面を閉じると「設定」画面に戻ります。

「設定」画面の「閉じる」ボタンを押して「設定」画面を完了します。

設定後は、設定内容を反映させるため、一度メニュー画面の「閉じる」ボタンを押してレセプトチェッカーLSを終了させてください。

3-4. サーバーの設定

レセプトチェッカーLSのサーバーとして使用するパソコンには、あらかじめレセプトチェッカーLSをインストールしておく必要があります。

また他のパソコンから接続可能とするための「ファイアウォール」の設定が必要です。

ファイアウォールの設定は、サーバーとなるパソコンのみ必要です。

ここではWindows8の方法を例に解説します。

Windows8の場合

デスクトップ画面左下の「スタート」メニューから「コントロールパネル」を開きます。

Windows8の場合は、パネル画面の「下側」にスクロールして「右側」に進むと「コントロールパネル」の項目があります。



「コントロールパネル」から「システムとセキュリティ」のカテゴリをクリックしてください。

「システムとセキュリティ」画面が開きます。



「システムとセキュリティ」画面の二段目にある

「Windowsファイアウォール」をクリックしてください。

「Windowsファイアウォール」画面が開きます。

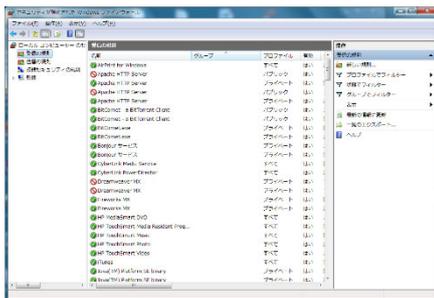


「Windowsファイアウォール」画面では、左枠の「詳細設定」をクリックしてください。

このとき、Windowsの「ユーザーアカウント制御」による確認画面が表示される場合があります。この確認画面が表示されたときは、「はい」をクリックしてください。



「詳細設定」画面では、最初に左枠の「受信の規則」をクリックしてください。



「受信の規則」が表示されるので、次に右枠の「新しい規則」をクリックしてください。



「新規の受信の規則ウィザード」が表示されるので、「規則の種類」には「ポート」を選択してください。

「次へ」をクリックしてください。



次の「プロトコルおよびポート」では、「TCP」と「特定のローカルポート」を選択してください。特定のローカルポートの番号には「3050」を入力し、「次へ」をクリックしてください。



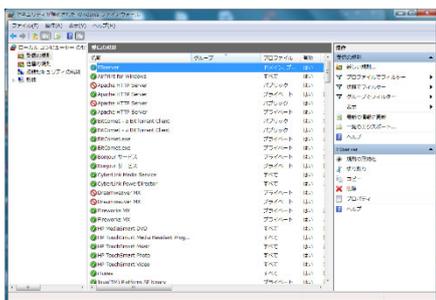
次の「操作」では、「接続を許可する」のまま、「次へ」をクリックしてください。



次の「プロファイル」では、「ドメイン」と「プライベート」のチェックのみ残し、「パブリック」のチェックを外してください。「次へ」をクリックしてください。



次の「名前」では、名前の欄には「FBserver」など「Firebirdデータベースサーバー用に開放するポート設定」であることが判るように記入します。説明の欄は任意入力です。「完了」をクリックして、「新規の受信の規則ウィザード」画面を完了します。



Windowsファイアウォールの「受信の規則」に、先ほどの「FBserver」が登録されたことを確認します。メニューバーの「ファイル」から「終了」を選択して、「Windowsファイアウォール」の詳細設定画面を終了します。



「Windowsファイアウォール」画面のメニューバーから「ファイル」-「閉じる」を選択して、「Windowsファイアウォール」画面を終了します。

4. レセプトチェッカーLSの更新

4-1 更新の概要

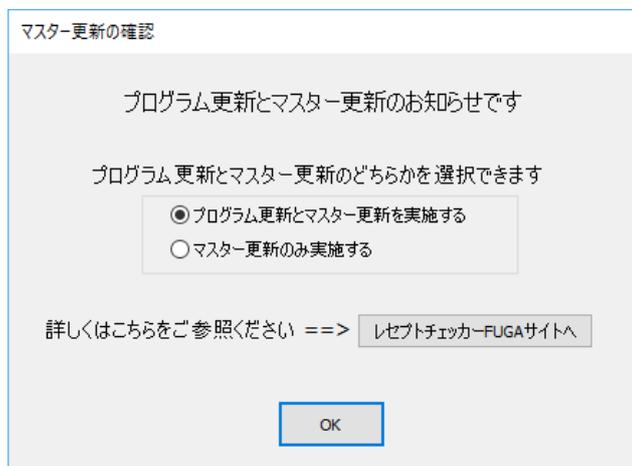
「自動」と「手動」の2種類の更新があります。

自動の場合、インターネットに接続していることが条件で、起動時に自動的にプログラム及びマスターの更新の有無を参照して、プログラム及びマスターの更新の確認後更新を行います。

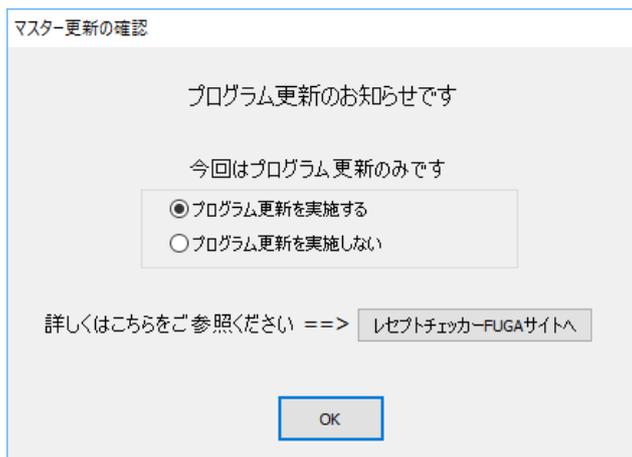
手動の場合、Setup用ファイル(Setup.exe)をダウンロード、解凍後、Setupを起動して更新を行います。

4-2 自動更新

- ①「プログラム更新」と「マスター更新」の両方の更新がある場合に表示され、選択できます。



- ②「プログラム更新」のみの場合に表示され、プログラム更新の実施の有無を選択できます。



- ③マスター更新のみの場合は確認メッセージは表示されず、マスター更新を自動で行います。

④更新がある場合は、ダウンロード時に残量が表示されます。



⑤プログラム更新の場合は、ダウンロード後、「Setup.exe」が自動的に起動し、クライアントPC導入時と同じ展開となります。

詳しくは、「2-5 レセプトチェッカーLS クライアントPCインストール」
(11 ページ)をご参照ください。

③更新がない場合は、「新しい更新はありません」と表示されます。



4-3 手動更新

①起動時に下図のような手動更新方法を説明した画面が表示されます。



②「ここをクリック」をクリックするとブラウザが起動し、ダウンロードサイトが表示されます。

③インターネットに接続したPCで、ダウンロードサイトからダウンロードし、レセプトチェッカーLSがインストーラされているPCで、マスター更新を行います。

注：レセプトチェッカーによる判定の結果生じた返戻、減点、査定につきましては責任を負いかねますのでご了承ください。

レセプトチェッカーLS

インストール版 -インストールマニュアル-

2024年5月16日

■レセプトチェッカーLS

- 販売・サポート 株式会社エヌ・アイ・エム
- 医学監修 長崎県保険医協会

■お問い合わせ

- 株式会社エヌ・アイ・エム

サポートデスク

〒851-0103 長崎県長崎市中里町20

095-839-3198 FAX : 095-839-2984

E-mail : info@receiptcheckerls.info

URL : <https://receiptcheckerls.info>